

# アイルランド語で表現された媒体を用いたア イルランド文化の総合的研究

HISHIKAWA, Eiichi / 梨本, 邦直 / 池田, 寛子 / 春木, 孝子  
/ 岡村, 眞紀子 / 谷川, 冬二 / 菱川, 英一 / 荒木, 孝子 /  
NASHIMOTO, Kuninao / IKEDA, Hiroko / HARUKI, Takako /  
OKAMURA, Makiko / TANIGAWA, Fuyuji / ARAKI, Takako

---

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費補助金研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

5

(発行年 / Year)

2009-05-29

## 様式 C-19

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520238

研究課題名（和文）アイルランド語で表現された媒体を用いたアイルランド文化の総合的研究

研究課題名（英文）THE COMPREHENSIVE STUDY OF IRISH CULTURE THROUGH THE MEDIA EXPRESSED IN THE IRISH LANGUAGE

研究代表者

梨本 邦直 (NASHIMOTO KUNINAO)

法政大学・工学部・教授

研究者番号：30340748

研究成果の概要： アイルランド語現代文法研究の成果として、平成 20 年 1 月、『アイルランド語文法—コシュ・アーリゲ方言』CD 付（研究社）の刊行を本科学研究費メンバーを中心とする京都アイルランド語研究会によって行った。また、ブライアン・メリマンの長編詩『真夜中の法廷』の研究分析に着手し、それを基に 18 世紀アイルランド経済、社会、言語、当時の文学的伝統のありようを探った。『真夜中の法廷』の第一人者であるリーアム・P・オムルフー氏およびリーアム・オドハティ氏を招聘し、二日間にわたってセミナーを開催し、質疑応答、意見交換を行い、研究を前進させた。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2006 年度	1,400,000	0	1,400,000
2007 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総 計	3,400,000	600,000	4,000,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：アイルランド語、アイルランド文学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究グループが平成 15～17 年度に受けた科学研究費補助金による研究結果として出版に至った文法書と論文集『今を生きるケルト—アイルランドの言語と文学』を刊行した。これは、アイルランド語話者による朗読が聞けるように CD を付けるという日本で初めての試みであり、「アイルランド語およびアイルランド語で書かれた文学に関して、おそらく日本で初めて市販された論文集である」という評価を得た。

本研究課題では前研究課題のアイルランド語現代文法の研究を終了させた後、文学の分野では視点を現代から 18 世紀後半に移し、ブライアン・メリマン (Brian Merriman, 1749-1805) による『真夜中の法廷』(Cúirt an Mheán Oíche) という 1026 行からなる長編詩を主眼に置くこととした。この詩は、当時深刻な社会問題であった結婚をめぐる不平等、教会のあり方をめぐっての社会不安を浮き彫りにした作品で、ユーモラスな語り口と、卓抜した強勢リズムによって初めは教養人

の間に楽しまれ、後のアイルランド文学に大きな影響を及ぼした。

この詩を中心に経済、社会、言語、当時の文学的伝統のありようを探ることは、これからのアイルランド研究を発展させる上で一つの鍵となる。18 世紀アイルランドについては、アングロ・アイリッシュによる英語文学、ダブリンを中心とした政治史の研究は進んでいるが、アイルランド語でどれほどの文化が繰り広げられていたのかについては、日本では研究があまり進んでいないのが実情である。

## 2. 研究の目的

(1) アイルランド文化においては、英語で表現された媒体にあっても、その伝統的な基盤にはアイルランド語で表現されていた時代のケルト文化の名残が根強く引き継がれている。またアイルランドの言語問題は、歴史的にも政治的にもヨーロッパ、イギリスと深いかかわりを持っている。そのためアイルランド文化の理解と研究には、アイルランド語の背後にある政治的、歴史的、文化的問題のすべてに関する多角的かつ総合的な検証をする必要がある。以上のコンセプトに基づいて、この研究組織の各メンバーがアイルランド語で表現された媒体およびそれについての綿密な調査と幅広い研究を行う。

(2) ブライアン・メリマンの長編詩『真夜中の法廷』を分析し、それを基に 18 世紀アイルランドの経済、社会、言語、当時の文学的伝統のありようを探る。

## 3. 研究の方法

文法研究会では Mícheál Ó Siadhail によるコナマラ方言文法書 *Learning Irish* を中心に、*Graiméar Gaeilge na mBráithre Críostaí* や *Modern Irish* などの文献を読みあわせてきた。研究会で *Learning Irish* の翻訳を試みる過程で、この文法書をもっと分かりやすく精密なものにするため、議論によって厳密な吟味を加えた。

*Learning Irish* の著者であり、詩人でもあるミホール・オシール氏を招聘し、文法研究を進めるだけでなく、氏の現代詩を直接鑑賞する機会を持った。

アイルランド語詩講読会では、詩を通じて議論を進めることで、専門分野が異なる我々がアイルランド語詩を媒介に互いに知識や認識を深め合った。言語の専門家と、文学についての専門家がこのような形で議論の場を持つことで、アイルランド語を取り巻くさまざまな問題を多角的に検討した。

また、アイルランド語詩人ヌーラ・ニゴール氏を招いて一般公開の朗読会を開いた。さらに、アイルランド語文学研究者リーアム・オムルーフ氏を招聘してセミナーと公開

講演を開いた。

## 4. 研究成果

文法研究の成果として、平成 20 年 1 月、京都アイルランド語研究会編『アイルランド語文法—コシュ・アーリゲ方言』CD 付（研究社）の刊行を行った。

これは、ミホール・オシール氏のアイルランド語文法書 *Learning Irish* の翻訳を完成させて、アイルランド語音のカタカナ表記原則、文法項目の体系的な索引、注釈、付録（不規則動詞、コピュラ文の構造、前置詞代名詞についての記述など）を大幅に加筆したものである。巻末のアイルランド語の語彙集は、発音記号を付し辞書に近い形に編集した。

ブライアン・メリマン (Brian Merriman, 1749-1805) によって 18 世紀末に書かれた 1026 行からなる長編詩『真夜中の法廷』(Cúirt an Mheán Oíche) の解析、翻訳を行った。文法的な解釈を中心とする逐行英訳と韻律解析をした後、日本語への翻訳も行った。この研究は今も継続中であり、次期科学研究費補助金の期間で完成、出版という形で公表する計画である。

以下、初めの 40 行の分析・解釈結果の例を示す。

〔統語対応逐語解釈〕

It was my custom to stroll along the edge  
of the river  
On the green fresh grass and the dew (was)  
thick,  
Near the woods in the recess of the  
mountain  
Without sorrow or delay at the light of the  
day.  
My heart would brighten when I' d see Lough  
Graney,  
The land, the countryside and the outline  
of the sky,  
Pleasing delightfulness (was) the  
location of the mountains  
Threatening their heads over the back of  
each other.  
The heart that would wither with age would  
brighten  
Worn without strength or filled with  
pains,  
The bitter wretch without property and  
riches,  
He would see a while over the tops of the  
woods  
Ducks in their flocks in haven without mist  
And the swan in their midst and it moving  
with them,  
The fish with merriment jumping high,  
A perch in my sight flamboyantly  
speckle-bellied,

The color of the lake and the blue of the waves,  
 Coming strongly, noisily, heavily.  
 The birds in the trees were merry and graceful,  
 And jumping of the doe in the woods near me,  
 Bellowing of (hunting) horns and a sight of the hosts,  
 Hard running of the dogs and Reynard before them.  
 Yesterday morning the sky was without mist,  
 The sun from Cancer was in a red hot mass  
 And she (was) harnessed to work after the night  
 And the work of that day before it lying.  
 Were leafy branches on tree limbs around me,  
 Coarse and fine grasses in swathes beside me,  
 Growing greens and flowers and herbs  
 Which would scatter away thoughts no matter how tormenting (they are).  
 I was tired and the sleep (was) wearing me down  
 And I stretched myself evenly on the green grass  
 Beside the trees, up against the trench,  
 Support for my head and my legs outstretched.  
 Upon closing my eyes tightly together,  
 Fastened and closed in the tight grip of sleep  
 And my face covered from the flies satisfactorily  
 In a dream I suffered the agonizing vortex  
 Which stirred, stripped, and pierced me to the liver  
 In my sleeping heavily, unconsciously without orientation.

〔日本語解釈〕

よく私は川の畔を歩いた  
 深く露で濡れた瑞々しい草地を  
 山の奥なる森の傍ら  
 悲しみもためらいもなく暁光を背に  
 心を輝かせてくれたのは眼に映るグレーネ湖  
 大地と田園と空に続く山の稜線  
 うっとり心と心を奪う素晴らしき山の連なり  
 その山々が背比べして高さを誇っている。  
 歳月に老いた心が輝く  
 力は尽き苦痛に満ちた心が、  
 財も富もなく辛辣な生ける屍でも輝く  
 森の向こうをしばし眺めれば  
 霧のはれた入江に群なすカモ、

その中でいっしょに泳ぐ白鳥、  
 元気に跳ね上がる魚、  
 目の前でぴちぴち跳ねるまだらのパーチ、  
 湖の色と波の青  
 音高く、大きく、雄々しく寄せる波。  
 木々では鳥たちが楽しく優美にさえずり  
 森の中、私のそばで雌鹿が跳びはね  
 角笛が響き、狩りの一団が見える、  
 猟犬の突撃、逃げるは狐のルナール。  
 昨日の朝は空に霧もなく、  
 太陽は蟹座の位置でぎらつく光の塊となり  
 夜は終わり、太陽は仕事に就き  
 その日の仕事は始まったばかり。  
 私の周りで木々は葉をつけ、  
 私のそばに生い茂るシダや草  
 繁る緑や花や葉草は、  
 思い悩む悲しい心を紛らわせてくれる。  
 疲れきって眠気に襲われ  
 私は緑の草むらに身体を長々と横たえた。  
 木々のそば、堤を背にして  
 頭を支え、伸ばした手足。  
 両目を固くつむるとたちまち  
 深い眠りに閉じ込められて、  
 顔はハエからすっかり隠しているものの、  
 夢の中で苦悩の渦が私を襲い  
 私を揺すぶり、剥ぎ取り、腸(はらわた)まで  
 貫く  
 重苦しく、無意識のあてもない眠りの中で。

この『真夜中の法廷』について、最も優れた研究者であるリーアム・P・オムルフー氏 (Liam P. Ó Murchú アイルランド・コーク大学、現代アイルランド文学) を招聘し、二日間にわたってセミナーを行った。セミナーはテキスト上の疑問点だけでなく、背景上の疑問点も解決していく形で、延べ10時間以上にわたって行われ、その難解なテキストと18世紀の詩の背景に対する理解を深め、研究をさらに前進させることができた。

また、もうひとりの招待講演者であるリーアム・オドハティ氏 (Liam Ó Dochartaigh アイルランド・リムリック大学、メリマン協会議長) の講義では、フォークロアに見られる伝統と理性の対立の問題が論じられ、研究テーマ『真夜中の法廷』の分析に重要な視点を提供した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

- ① 春木孝子、Luminous Connection — 12 Representative Poems by 小池昌代 KOIKE Masayo、研究紀要 (Shoin Review)、第50号、37-63、2009、無
- ② 菱川英一、アイルランド語バラッド 'Ce

Sin ar Mo Thuama', エール、第 28 号、3-17、2008、有

③岡村眞紀子他共訳、『憂鬱の解剖』第 1 部第 1 章第 2、3 節、京都府立大学学術報告人文・社会、第 60 号、159-187、2008、無

④岡村眞紀子、岡田典之、川島伸博翻訳、ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第 1 章第 1 節第 1 項、京都府立大学学術報告人文・社会、59 号、35-50、2007、無

⑤梨本邦直、Dialectal Variations of the Irregular Verbs in Irish、小金井論集、第 4 号、1-14、2007、無

⑥荒木孝子、詩歌の中のパトリック・サースフィールドと J.C. マンガンの翻訳、外国語教育—理論と実践—、第 33 号、51-64、2007、有

⑦菱川英一、現代アイルランド語詩歌の韻律と発音—綴り字 ao の発音、文化学年報、第 26 号、15-30、2007、無

⑧池田寛子、Beyond the borders of Ireland: Ní Dhomhnaill, Jenkinson and "The Tragedy of the Children of Lir", Journal of Irish Studies、第 21 号、49-59、2006、有

⑨ 梨本邦直、Origin of Post-Copular Pronouns in Irish、小金井論集、第 3 号、1-12、2006、無

〔学会発表〕(計 5 件)

①池田寛子、"Truth in every single Tale: Reading into Nuala Ni Dhomhnaill's Fifty Minute Mermaid", IASIL JAPAN, The 25th International Conference、2008 年 10 月 11 日、学習院大学

②池田寛子、「秩序転覆のビジョン」ワークショップ「The Unicorn from the Stars をめぐって」にて、日本イエイツ協会、2008 年 9 月 7 日、青山学院大学

③池田寛子、詩篇『一九一六年 復活祭』について、イエイツ研究会、2007 年 6 月 23 日、京都大学

④荒木孝子、ブライアン・メリマンとアシュリング、京都アイルランド語研究会、2007 年 5 月 12 日、京都大学

⑤菱川 英一、バラッドの荒涼空間、神戸英米学会、2008 年 3 月 29 日、神戸大学

〔図書〕(計 7 件)

①梨本邦直、白水社、ニューエクスプレスアイルランド語、2008、152

②岡村眞紀子他共訳、英宝社、ジョン・ダン自殺論、2008、333

③梨本邦直、池田寛子、菱川英一、岡村眞紀子、春木孝子、荒木孝子他訳、アイルランド語文法—コシュ・アーリゲ方言、2008、393

④岡村眞紀子、桂文子、武田雅子、英宝社、ソネット選集—ケアリからコールリッジまで—、2007、215

⑤岡村眞紀子、英宝社、パラドックスの詩人—ジョン・ダン、2007、295

⑥岡村眞紀子、吉田幸子、齋藤美和他、金星堂、十七世紀英文学とミルトン、2007、303

⑦谷川冬二他、イエイツ、アーノルドを駁す (テキストとコンテキストをめぐって—W. B. イエイツの場合—所収)、2006、145-175

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

梨本 邦直 (NASHIMOTO KUNINAO)  
法政大学・工学部・教授  
研究者番号: 30340748

### (2) 研究分担者

池田 寛子 (IKEDA HIROKO)  
広島市立大学・国際学部・准教授  
研究者番号: 90336917

春木 孝子 (HARUKI TAKAKO)  
(2006. 4. 1~2008. 3. 31)

神戸松蔭女子学院大学・人間科学部・教授  
研究者番号: 80228668

岡村 眞紀子 (OKAMURA MAKIKO)  
(2006. 4. 1~2008. 3. 31)  
京都府立大学・文学部・教授  
研究者番号: 80123488

谷川 冬二 (TANIGAWA FUYUJI)  
(2006. 4. 1~2008. 3. 31)  
梅花女子大学・文化表現学部・教授  
研究者番号: 50163621

菱川 英一 (HISHIKAWA EIICHI)  
(2006. 4. 1~2008. 3. 31)  
神戸大学・人文学研究科・教授  
研究者番号: 80165109

荒木 孝子 (ARAKI TAKAKO)  
(2006. 4. 1～2008. 3. 31)  
天理大学・国際文化学部・講師  
研究者番号：20412124

(3)連携研究者

春木 孝子 (HARUKI TAKAKO)  
(2008. 4. 1～2009. 3. 31)  
神戸松蔭女子学院大学・人間科学部・教授  
研究者番号：80228668

岡村 眞紀子 (OKAMURA MAKIKO)  
(2008. 4. 1～2009. 3. 31)  
京都府立大学・文学部・教授  
研究者番号：80123488

谷川 冬二 (TANIGAWA FUYUJI)  
(2008. 4. 1～2009. 3. 31)  
梅花女子大学・短期大学部・教授  
研究者番号：50163621

菱川 英一 (HISHIKAWA EIICHI)  
(2008. 4. 1～2009. 3. 31)  
神戸大学・人文学研究科・教授  
研究者番号：80165109

荒木 孝子 (ARAKI TAKAKO)  
(2008. 4. 1～2009. 3. 31)  
天理大学・国際文化学部・講師  
研究者番号：20412124